

令和5年度「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム】

実施内容報告書

団体名： 一般社団法人ふくしま多言語フォーラム

1. 事業の概要

事業名称	メディアミックスの活用による地域とつながる新たな日本語学習活動モデル事業
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	1 背景 地域に暮らす外国人の数は増加の一途にあり、令和4年6月末には約296万人と過去最高となった。 一方で、外国人を対象とした出入国在留管理庁の「在留外国人に対する基礎調査（令和3年度）」によると、「あなたはどの程度、孤立であると感じることがありますか」の設問で、「しばしばある・常にある」「時々ある」「たまにある」と回答した割合の合計は、51.1%と過半数を越えた。他方、日本人に対する同様の別調査では、31.4%であったことから、外国人は日本人と比較して、なんらかの孤独感をより一層感じていることが分かった。 また、生活者としての外国人に対する日本語教育の担い手のひとつである地域日本語教室は、その多くが「教える」「教わる」という固定化した関係性の中で、教科書を使った教室型が主流である。さらには、日本語学習支援者は、固定化され世代交代もままならない中、高齢化を理由に活動を廃止せざるを得ない日本語教室も出てきている。 2 特定の課題 本事業では、以下の2つの特定の課題を設定する。 （1）外国人の地域における「目に見える定住化」 同じ地域に暮らす外国人と地域住民とのつながりの希薄化、いわゆる外国人の「目に見えない定住化」が静かに進行しており、特に外国人散在地域においては深刻である。 そこで、外国人が地域とつながりを持つためには、外国人が学んだ日本語を用いて社会に参加し、よりよい人生を歩もうとする社会的存在であること、また共に社会をつくる地域の共同体の構成員であることを理解し、日本社会において本来持っている力を発揮できるよう支援することを念頭に、日本語教育に取り組むことが重要である。さらに、外国人が多様化している中、こういった属性の日本語学習者がどのような社会的なつながりを必要としているかを明確にすることも必要である。 （2）地域日本語教室の再構築 現在、多くの地域日本語教室は、日本語学習者と日本語学習支援者とが閉じられた空間と限定された人間関係の中で活動が行われ、地域への積極的な発信もしないままに完結している。この状況には、本来、外国人と地域をつなぐ役割を担う地域日本語教室が、逆に

	外国人と地域の分断を助長する役割を担う危険性が潜んでいる。このことは、特にそもそも日本語学習支援の担い手の数の少ない外国人散在地域においては、より一層深刻である。 そこで、活動の場を地域に広げ、多様な地域住民を巻き込み、地域に発信する新たな形の日本語教室を再構築する必要がある。 3 特定のニーズ 日本語学習者は社会的存在であり、地域の共同体の構成員である。地域の日本語教室では、このことを念頭におきながら、自立した言語使用者としての日本語レベル（B1 レベル）に到達するまでの日本語を学習する場として、持続可能な活動を構築していかなければならない。 このような地域日本語教室を再構築するため、地域に開かれ、地域とつながる新たな日本語学習活動をモデル的に実施し、その成果と課題をとりまとめ、それを全国に発信し、新たな日本語教室活動を提案することが求められている。 本事業において上記のニーズを設定した背景には、つぎのような様々な社会調査の結果が根拠となっている。 ①「日本人の知人もいないし、つきあったこともない」理由として、「言葉が通じないから」が 50.2%と半数を占め、日本語が大きな障壁となっている。（出入国管理庁[2022]「在留外国人に対する基礎調査（令和3年度）」 ②社会参加の現状においては、「参加したいと思うが、参加したことがない」（39.9%）が、「参加したいと思わない」（28.9%）を上回っており、社会参加できない障壁を軽減すれば社会参加の可能性が高まる。（同上） ③「どのような日本語が学びたいか」においては、「初級会話」と「中級会話」を併せると 66.7%であり、JLTP 試験対策や読み書きよりも会話を望んでいる。（大阪市[2023]「識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査報告書」 ④「希望する日本語学習方法」においては、「日本人と会話しながら学ぶ」が 56.5%と、「地域の日本語教室で」の 48.4%を上回っており、地域の日本語教室に通うという従来の形にとらわれない学習方法を求めている。（名古屋市[2020]「地域日本語教育に関する調査結果報告書」） 以上のことから、地域に暮らす外国人は、地域社会とつながり地域社会での自己実現を望んでいるにもかかわらず、言葉が通じないことが大きな障壁になっている。また、日本語を学ぶスタイルとしては、ある場所に定期的に出かけて行って日本語を学ぶというスタイルの「地域の日本語教室」に通うことよりも、むしろ日本人との日常的な会話の中で学ぶスタイルを望んでいることがわかる。 そこで、本事業では、地域に暮らす外国人の日本語学習の場として、次のようなスタイルの日本語教育活動にニーズがあると特定する。 ①1 回完結型である Cando 型の日本語教育活動 ②日本語学習支援者としての地域住民参加による会話実践型の日本語教育活動 ③イベント性を前面に打ち出した日本語教育活動
--	--

	これにより、より多くの外国人がよりハードルの低い日本語教育活動に参加することができ、それにより日本語学習への意欲が誘発され、自立した言語使用者となることが期待できる。																								
事業の目的	「生活者としての外国人」に対する地域における日本語教育の充実を図るための本事業の目的は以下の2つである。 1 地域に開かれ地域とつながる新たな形の日本語学習活動をモデル的に実施する。 2 モデル的に実施した日本語学習活動の成果と課題を、広く全国の地域日本語教育関係者に向けて発信・共有し、新たな日本語学習活動を提案する。																								
事業内容の概要（課題をどのように解決したのか、どのような点が先進的な取組であったのか分かるように記載）	取組1 運営委員会の設置 当該事業に関係する第3者の立場から、当該事業の内容、実施方法等の検討、実施状況の確認と改善の検討、実施後の成果と課題の検討などを行った。 (1)開催回数 年4回 (2)運営委員（10人） 日本語教育学専門家、多言語メディア実践者、外国人コミュニティ代表、地域日本語教育実践者、コーディネーター等 取組2「生活者としての外国人」に対する特定のニーズのための先進的な日本語教育（30時間） 地域に開かれ地域とつながる新しい形の日本語学習活動をモデル的に実施し、その成果と課題をとりまとめた。 (1)実施日時、対象、場所、参加者数、活動 <table><tr><td>会場名</td><td>月日（10:00～16:00）</td><td>対象</td><td>場所（対面）</td><td>参加者数</td><td>活動</td></tr><tr><td>福島</td><td>8月19日 8月20日</td><td>外国の子ども</td><td>ふくしま市民活動サポートセンター</td><td>外国人7人 日本人5人</td><td>桃のPRすごろく制作</td></tr><tr><td>須賀川</td><td>8月23日 8月30日</td><td>配偶者</td><td>須賀川市民交流センター「tette」</td><td>外国人6人 日本人10人</td><td>絵本の読み聞かせ/松明あかし動画</td></tr><tr><td>会津</td><td>9月9日 9月16日</td><td>就労者</td><td>会津若松市生涯学習総合センター「会津稽古堂」</td><td>外国人14人 日本人9人</td><td>七日町オリジナルマップ制作</td></tr></table> (2)時間数 計30時間（5時間×2日×3会場） (3)内容 「情報を収集・発信する」、「社会の一員となる」、「人とかかわる」、「自身を豊かにする」生	会場名	月日（10:00～16:00）	対象	場所（対面）	参加者数	活動	福島	8月19日 8月20日	外国の子ども	ふくしま市民活動サポートセンター	外国人7人 日本人5人	桃のPRすごろく制作	須賀川	8月23日 8月30日	配偶者	須賀川市民交流センター「tette」	外国人6人 日本人10人	絵本の読み聞かせ/松明あかし動画	会津	9月9日 9月16日	就労者	会津若松市生涯学習総合センター「会津稽古堂」	外国人14人 日本人9人	七日町オリジナルマップ制作
会場名	月日（10:00～16:00）	対象	場所（対面）	参加者数	活動																				
福島	8月19日 8月20日	外国の子ども	ふくしま市民活動サポートセンター	外国人7人 日本人5人	桃のPRすごろく制作																				
須賀川	8月23日 8月30日	配偶者	須賀川市民交流センター「tette」	外国人6人 日本人10人	絵本の読み聞かせ/松明あかし動画																				
会津	9月9日 9月16日	就労者	会津若松市生涯学習総合センター「会津稽古堂」	外国人14人 日本人9人	七日町オリジナルマップ制作																				

活上の行為ができるよう、プロジェクトワーク型の活動を取り入れた日本語学習活動を行った。

(4) その他

実施会場毎に、日本語指導者や外国人などでチームを編成し、実情と課題やニーズに応じた活動案を企画した。

取組 3 取組の成果の発信

【A コミュニティラジオでの日本語学習活動の発信】

日本語学習活動の成果を発表するとともに、多文化共生社会の必要性についてのメッセージを発信した。

会場名	放送局	放送日時	内容
福島	FM ポコ	12 月 31 日 12:30～12:45	日本語学習中のやりとり、インタビューの様子、参加外国人の感想など
須賀川	ウルトラ FM	12 月 31 日 11:30～11:45	
会津	FM 愛's	12 月 31 日 19:45～20:00	

【B メディアミックスでの事業報告会】

日本語学習活動等の成果と課題を共有し、全国の地域日本語教室等の今後の活動の一助とした。

月日（1 回）	対象	参加者数	内容
令和 6 年 2 月 25 日 13:30 ～15:50	全国の国際交流協会や地域日本語教室、その他関心のある方	59 人 (申込者 90 人)	事業報告スライドショー上映、事業の成果と課題の報告、日本語教育及び多言語メディアの立場からのコメント、意見交換会

取組 5 その他

【A 中核メンバー会議の設置】

主に、県内 3 会場の日本語学習活動案の基本構成の立案、3 会場の活動案への助言や提案、調整及び事業の成果と課題、評価の共有を行った。

回数	メンバー名
計 5 回	佐々木千賀子（福島会場チーム長兼日本語指導者）、石橋英子（会津会場チーム長兼日本語指導者）、永島恭子（須賀川会場チーム長兼日本語指導者）、幕田順子（コーディネーター）

【B 各会場におけるチーム会議の設置】

各会場の活動に関わる当事者の立場から、地域の実情や日本語学習者の属性に応じた日本語学習活動の企画及び活動の成果と課題、評価等を行った。

チーム名	回数	メンバー名
福島	計 6 回	佐々木千賀子（中核メンバー兼チーム長兼日本語指導者）、日本語指導補助者 2 人、外国人代表者、永島恭子、幕田順子

	須賀川	計 5 回	永島恭子（中核メンバー兼チーム長兼日本語指導者）、日本語指導補助者 2 人、外国人代表者、地元国際交流団体代表者、幕田順子
	会津	計 6 回	石橋英子（中核メンバー兼チーム長兼日本語指導者）、日本語指導補助者 2 人、外国人代表者、地元国際交流団体代表者、永島恭子、幕田順子
	【C 関係者会議の設置】 各取組をより充実するための検討等を行った。		
	取組名	回数	出席者名
	取組 2 (須賀川会場)	1 回	須賀川市役所職員、読み聞かせ講師、地元国際交流団体代表者、永島恭子（日本語指導者）、幕田順子
	取組 2 (福島会場)	1 回	桃農家、佐々木千賀子（日本語指導者）、幕田順子
	取組 3 (報告会)	2 回	コメンテーター、発表者、中川祐治、永島恭子、幕田順子
事業の実施期間	令和 6 年 6 月 ～ 令和 7 年 3 月 （10 か月間）		

2. 事業の実施体制

(1) 運営等委員会

実施体制	構成員の人数		
	10 人		
	構成員の属性や専門性		
	氏 名	所 属 ・ 役 職	専門分野
	三代純平	武蔵野美術大学教授	日本語教育学
	金千秋	NP0 法人エフエフわいわい代表理事	多言語メディア
	伊藤オディ	リングイスト語学スクール代表	外国語教育/モンゴル人コミュニティ
	李莉岩	日中文化ふれあいの会 幸福 代表	中国人コミュニティ
	ブイバンホック	福島国際交流事業協同組合 通訳 兼相談員	ベトナム人コミュニティ
	佐々木千賀子	蓬萊日本語教室副代表	地域日本語教育の実践
	石橋英子	フロムココ白河代表	地域日本語教育の実践
	永島恭子	(一社)ふくしま多言語フォーラム 代表理事	地域日本語教育
	中川祐治	(一社)ふくしま多言語フォーラム 理事	地域日本語教育
	幕田順子	(一社)ふくしま多言語フォーラム 理事	地域日本語教育コーディネーター
	運営方法		
	(1)実施方法		
	オンライン		
	(2)会議内容		
	回	月日	内容
	1	7 月 14 日	当該事業の内容、実施方法等の検討
	2	11 月 27 日	日本語教育活動の実施状況の確認、報告会実施内容の検討
	3	12 月 5 日	報告会実施内容の再検討
	4	令和 6 年 3 月 11 日	事業の成果と課題、評価の検討
	(3)その他		
	・ 日時は、事前に調整し、より多くの出席者が見込まれる日時に設定した。		

- ・議案は、事前にメール送信して確認を促した。
- ・会議後は、議事録を作成し内容を記録するとともに、欠席者に議事録を送信した。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	1 日本語学習活動	
	各会場での連携体制については次のとおりであった。	
	福島会場	①福島市国際交流協会（広報、会場便宜供与、成果物活用） ②福島県国際交流協会（広報） ③蓬萊日本語教室（広報） ④読売新聞福島支社（取材方法の指導） ⑤桃農家（インタビュー協力） ⑥英会話サークル（成果物の発表） ⑦JA ふくしまみらい（成果物の報告） ⑧福島民報（記事掲載） ⑨福島民友（記事掲載） ⑩FM ポコ（ラジオ放送）
	須賀川会場	①日中支援会～つばさの会（参加者とりまとめ） ②須賀川市（学芸員等職員派遣、成果物活用） ③須賀川市多文化共生ネット（広報） ④読み聞かせの会ぽけっと（読み聞かせの指導） ⑤知る古会（伝統行事「松明あかし」の説明補助） ⑥福島民報（記事掲載） ⑦福島民友（記事掲載） ⑧ウルトラ FM（ラジオ放送）
	会津会場	①会津若松市国際交流協会（広報、参加者とりまとめ、成果物活用） ②会津喜多方市国際交流協会（広報） ③会津坂下町国際交流協会（広報） ④会津大学（広報） ⑤福島国際交流協同組合（広報） ⑥会津グローバルネットワークス（株）（広報） ⑦北日本金型工業（広報） ⑧七日町通りまちなみ協議会（インタビュー協力のとりまとめ） ⑨七日町通り商店街 ⑩福島民報（記事掲載） ⑪福島民友（記事掲載） ⑫FM 愛's（ラジオ放送）
	2 報告会	
	報告会における広報協力団体は、次のとおりであった。	

- ① 文化庁
- ② 岩手県、宮城県、栃木県、新潟県、福島県、仙台市、福島市、いわき市、郡山市、会津若松市、喜多方市の各国際交流協会
- ③ インターカルト日本語学校

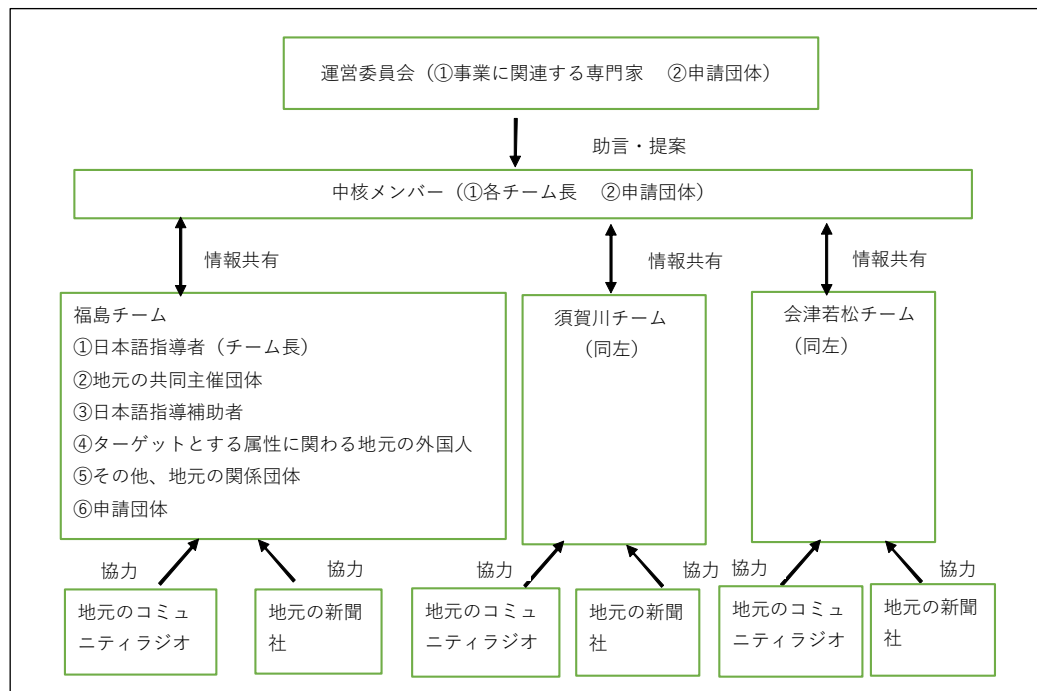
(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

実施体制

(1) 中核メンバー

役割	取組	氏名	所属・職名
福島会場チーム長	取組 2、3	佐々木千賀子	蓬萊日本語教室副代表
須賀川会場チーム長	取組 2、3	永島恭子	(一社) ふくしま多言語フォーラム代表理事
会津会場チーム長	取組 2、3	石橋英子	フロムココ白河代表
コーディネーター	全ての取組	幕田順子	(一社) ふくしま多言語フォーラム理事

(2) 実施体制



(3) 実施方法

オンライン

3. 各取組の報告

運営等委員会の設置 【名称：運営委員会】																							
取組の目標	当該事業に係る第3者の立場から、当該事業の内容、実施方法等の検討、実施状況の確認と改善の検討、実施後の成果と課題の検討などを行う。																						
内容	(1) 日時、議案、出席者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>日時</th><th>議案</th><th>出席者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>7月14日 19:00～21:00</td><td>1 事業計画について 2 各チーム日本語教室活動について 3 ラジオ番組編成について</td><td>9人</td></tr> <tr> <td>2</td><td>11月27日 19:00～20:30</td><td>1 事業趣旨の再共有について 2 日本語教室活動の報告 3 ラジオ番組の進捗状況について 4 報告会について 5 今後のスケジュールについて</td><td>9人</td></tr> <tr> <td>3</td><td>12月5日 20:00～21:30</td><td>1 報告会の修正案について</td><td>8人</td></tr> <tr> <td>4</td><td>3月11日 20:00～21:00</td><td>1 事業全体の成果と課題、評価について</td><td>7人</td></tr> </tbody> </table> (2) 実施方法 オンライン			回	日時	議案	出席者数	1	7月14日 19:00～21:00	1 事業計画について 2 各チーム日本語教室活動について 3 ラジオ番組編成について	9人	2	11月27日 19:00～20:30	1 事業趣旨の再共有について 2 日本語教室活動の報告 3 ラジオ番組の進捗状況について 4 報告会について 5 今後のスケジュールについて	9人	3	12月5日 20:00～21:30	1 報告会の修正案について	8人	4	3月11日 20:00～21:00	1 事業全体の成果と課題、評価について	7人
回	日時	議案	出席者数																				
1	7月14日 19:00～21:00	1 事業計画について 2 各チーム日本語教室活動について 3 ラジオ番組編成について	9人																				
2	11月27日 19:00～20:30	1 事業趣旨の再共有について 2 日本語教室活動の報告 3 ラジオ番組の進捗状況について 4 報告会について 5 今後のスケジュールについて	9人																				
3	12月5日 20:00～21:30	1 報告会の修正案について	8人																				
4	3月11日 20:00～21:00	1 事業全体の成果と課題、評価について	7人																				
本取組により検討された事業の方針や特定のニーズに対応した日本語教育の方向性	1 日本語教育活動について - 各会場のねらいを絞ること。 - ねらいと日本語学習活動内容を一致させるように活動案を作成すること。 2 成果の発信について - ラジオでの発信においては、音声だけという制限の中で最大限に効果が引き出せるように工夫すること。 - 報告会においては、成果だけでなく難しかったことなど実際に取り組んだ日本語指導者やコーディネーターの率直な意見も共有すること。																						

実施期間	令和5年7月14日 から 令和6年3月11日 まで	開催時間・回数	1回2時間 × 1回 = 2時間 1回1.5時間 × 2回 = 3時間 1回1時間 × 1回 = 1時間 計4回、計6時間
------	------------------------------	---------	--

特定のニーズに応じた日本語教育の実施

【名称：地域に開かれ地域につながる日本語学習活動】

取組の目標	1 外国人の地域における「目に見える定住化」をはかる。 社会的存在としての「子ども」「配偶者」「就労者」を対象に地域住民を巻き込んだプロジェクトワークを取り入れた日本語学習活動を実施する。そして、それぞれの属性の日本語学習者がどのような社会的なつながりを必要としているかを明確にする。 2 地域日本語教室を再構築する。 日本語学習活動の場を、「閉じられた空間」から「地域」へと広げ、多様な地域住民を巻き込みながら、地域に発信する新たな形の日本語教室を再構築する。				
内容	1 「地域に開かれ地域につながる日本語学習活動」のモデルの設定 目標の達成に向けて、次の通りモデルを設定した（各会場共通）。 <table border="1" data-bbox="368 1066 1453 1693"> <tr> <td data-bbox="368 1066 448 1402">活動内容</td><td data-bbox="448 1066 1453 1402"> ・ 1回完結のイベント型（定期的開催型との対比において） ・ プロジェクトワーク型 ・ 地域住民の参加 ・ 地域人材（外部講師）の取り込み ・ 教室外での活動 ・ 活動したことが地域とつながる活動 ・ 活動の様子や成果を、様々なメディアを活用して地域に発信 </td></tr> <tr> <td data-bbox="368 1402 448 1693">期待される効果</td><td data-bbox="448 1402 1453 1693"> 外国人学習者が ・ これまで付き合いのない地域住民と新たな人間関係をつくるきっかけができる。 ・ 地域の構成員として地域のために役立つことができたと思える。 地域社会が、 ・ 地域に暮らしている外国人住民の存在を可視化することができる。 </td></tr> </table> 2 外国人当事者からのニーズ調査 各会場のチーム会議で外国人メンバーに対するニーズ調査した結果は次のとおりであった。 【福島会場】 子どもたちは、住んでいる福島のこと、例えば福島の名産である桃について詳しく知りたい。	活動内容	・ 1回完結のイベント型（定期的開催型との対比において） ・ プロジェクトワーク型 ・ 地域住民の参加 ・ 地域人材（外部講師）の取り込み ・ 教室外での活動 ・ 活動したことが地域とつながる活動 ・ 活動の様子や成果を、様々なメディアを活用して地域に発信	期待される効果	外国人学習者が ・ これまで付き合いのない地域住民と新たな人間関係をつくるきっかけができる。 ・ 地域の構成員として地域のために役立つことができたと思える。 地域社会が、 ・ 地域に暮らしている外国人住民の存在を可視化することができる。
活動内容	・ 1回完結のイベント型（定期的開催型との対比において） ・ プロジェクトワーク型 ・ 地域住民の参加 ・ 地域人材（外部講師）の取り込み ・ 教室外での活動 ・ 活動したことが地域とつながる活動 ・ 活動の様子や成果を、様々なメディアを活用して地域に発信				
期待される効果	外国人学習者が ・ これまで付き合いのない地域住民と新たな人間関係をつくるきっかけができる。 ・ 地域の構成員として地域のために役立つことができたと思える。 地域社会が、 ・ 地域に暮らしている外国人住民の存在を可視化することができる。				

【須賀川会場】

自分たちは母親なので、以前から中国語での読み聞かせができるようになりたかったし、それを地域の子どもたちにも披露したかった。また地元の有名な伝統行事である「松明あかし」についてあまり知らないなので、詳しく知りたい。

【会津会場】

外国人は日本語の壁があり、なかなか一人でお店に入ることに抵抗があるので、それができるようになりたい。

3 実施内容**【福島会場】**

対象	外国の子ども
ねらい	・ 外国にルーツを持つ子どもと日本の子どもが日本語で交流する。 ・ 地域の一員であることに気づく。 ・ 地域に暮らす外国にルーツを持つ子どもの存在の「見える化」につなげる。
日時	8月19日（土）、8月20日（日） いずれも10時～16時
場所	ふくしま市民活動センター、地元の果樹園
講師	佐々木千賀子（日本語指導者）、日本語指導補助者3人、取材の指導講師（新聞記者）
参加者	外国人7人、日本人5人
活動	福島の桃をPRしよう
成果の具現化	福島の桃をPRするすごろく制作

【須賀川会場】

対象	配偶者
ねらい	・ 学習者の興味関心のある活動を取り入れることで、学習者の日本語学習意欲を引き出す。 ・ 学習者の興味関心のある活動に、関係者を巻き込むことで、社会参加のきっかけ作りの場とする。
日時	8月23日（水）、8月30日（水） いずれも10時～16時
場所	須賀川市市民交流センター「tette」
講師	永島恭子（日本語指導者）、日本語指導補助者2人、読み聞かせの指導講師
参加者	外国人6人、日本人10人
活動	絵本の読み聞かせをしよう。松明あかしに詳しくなろう。
成果の具現化	地域イベントでの読み聞かせの実践（後日） 動画「松明あかし」への字幕スーパーと中国語ナレーション

	【会津会場】	
	対象	就労者
	ねらい	・ 日本語でのコミュニケーションを向上する。 ・ 七日町を散策し、気に入ったものや場所を見つけ、発表する。 ・ 商店街の人たちとの交流を深める。 ・ 地域に暮らす外国人の存在の「見える化」につなげる。
	日時	9月9日（土）、9月16日（土） いずれも10時～16時
	場所	会津若松市生涯学習総合センター「会津稽古堂」、七日町通り
	講師	石橋英子（日本語指導者）、日本語指導補助者2人
	参加者	外国人14人、日本人9人
	活動	七日町を散策し気に入った場所を発見しよう！
	成果の具現化	七日町通り商店街のお気に入りマップ
取組による特定のニーズに対する工夫	1 外国人当事者の参画 各会場の日本語学習活動は、当事者である外国人を取り込んだチーム会議で検討することにより、より「社会的存在としての日本語学習者」を可視化した。	
	2 プロジェクトワークを取り入れた日本語学習活動 日本語学習者が、地域住民と対等な立場でプロジェクトワーク型の活動に取り組むことを通じて「自立した言語使用者」を目指した。	
	3 地域における多様な人材とリソースの取り込み 多様な地域の人材やリソースを取り入れた活動を報告会で共有することを通じて、将来的に日本語教室に参加する人やリソースが変わっても、新たな連携、新たな人とのつながりを創発していけるような持続可能な日本語学習活動を目指した。	
	4 各会場におけるCando記述シートの作成 3つの会場でねらいや活動内容が異なるため、会場毎にCando記述を作成し、日本語学習の効果の向上に努めた。さらに、Cando記述シートをもとに日本語指導者（指導補助者）が活動中意識して学習者を観察することを通じて日本語指導力の向上につなげた。	
	5 日本語指導者・指導補助者の自己評価シートの作成 日本語指導者・指導補助者が、指導者としての評価の観点を事前に意識することで、日本語指導の効果の向上につなげた。	

実施期間	令和5年8月19日 から 令和5年9月16日 まで	授業時間	1回5時間×2日×3会場 計30時間
対象者	【福島会場】外国の子ども 【須賀川会場】配偶者 【会津会場】一般就労者	参加者	総数 74人 (内、受講者51人) (内、指導者・支援者等23人)
日本語教育の言語 技能とレベルについて	日本語教育の参照枠 自立した言語使用者 B1 レベル <理解すること> (聞くこと) 地域住民が比較的ゆっくり、はっきりとした話し方をすることで、地域の身近な話題から地域住民の個人的な話題まで、要点を理解することができる (読むこと) 非常によく使われる日常言語や、学習活動に関連のある言葉で書かれたプリントのテキストなら理解できる <話すこと> (やり取り) 地域住民に対するインタビュー等において、関心を持ったことを準備なしで会話に入ることができる (発表) インタビュー等を通して知ったことなどを簡単な方法で語句をつないで語るようになる <書くこと> (書くこと) インタビュー等で聞いてみたいこと、実際に聞いたこと、それぞれについて、つながりのあるテキストを書くことができるようになる		

日本語教育の対象とする生活上の行為について

【大分類】

「Ⅶ 人とかわる」「Ⅷ 社会の一員となる」「Ⅸ 自身を豊かにする」「Ⅹ 情報を収集・発信する」

【中分類】

「14 他者との関係を円滑にする」「16 地域社会に参加する」「19 学習する」「22 マスメディアを利用する」

【小分類】

「(31) 人と付き合う」「(35) 地域社会に参加する」「(42) 日本語を学習する」「(43) 日本について理解する」「(48) マスメディア等を利用する」

各会場の Cando 記述シート

【福島会場】

大分類	中分類	小分類	Can do
人とかわる	他者との関係を円滑にする	人と付き合う	(B1) その場に応じた礼儀などを理解して、適切に行動できる
			(A2) 日常的に使われる挨拶や呼びかけなど、失礼にならない言葉遣いで短い話ができる
			(A1) 日常的に行われる挨拶や紹介などを失礼にならない言葉遣いでできる
		異文化を理解する	(B1) さまざまな文化、風習を持つ人との活動の中で、文化・風習における違いについて、ある程度詳しい情報を質問したり、答えたりすることができる
			(A2) お互いの国や地方の文化について、簡単な情報を質問したり、答えたりすることができる
			(A1) お互いの国や地方の文化について、短い言葉でコメントすることができる
社会の一員となる	地域社会に参加する	目的達成のための協同作業をする	(B1) 相手の話し方が速かったり長い場合には、繰り返しや説明を求めたりしながら活動に参加できる
			(A2) 話についていっていることを共に活動する仲間に分からせることができる
			(A1) 簡単で短い表現での指示や質問が理解できる
自身を豊かにする	学習する	日本語を学習する	(B1) 日本語活動に参加し、初めて会った人の身近な話が理解でき、簡単な質問ができる
			(A2) 日本語活動に参加し、初めて会った人と自分の身近なことに関して短い話ができる

				(A1) 日本語活動に参加し、初めて会った人に、名前、出身、学年など身近なことを尋ねたり、答えたりすることができる	
			インタビューをする	(B1) 相手が早口で言ったり、長く答えたりすると繰返しを求めることができるが、確認しながら用意したインタビューをやり遂げることができる	
				(A2) 時々相手から説明を求められたり、周りが手伝うこともあるが、自分が言いたいことを相手に理解させることができる	
				(A1) 簡単な質問を聞いたり、答えたりすることができる	
	情報を収集・発信する	長く一人で話す	発表する	(B1) 接続詞などを使い発表事項を並べて、比較的流暢に話すことができる	
				(A2) 発表事項を列挙して、簡単に述べることができる	
				(A2) 非常に短い、準備して練習したものを読みあげることができる	
	【須賀川会場】				
	大分類	中分類	小分類	言語活動	Can do
	人とかわる	他者との関係を円滑にする	人と付き合う	やり取り	(B1) 初めて会う人と簡単なコメントや意見を交換することができる
やり取り				(A2) 初めて会う日本人参加者に、分からないことを簡単な言葉で尋ねることができる	
やり取り				(A1) 初めて会う人に、名前や出身などを尋ねたり答えたりすることができる	
異文化を理解する			聞くこと	(B1) 地域の伝統行事について、専門家の説明を聞き、主要な情報を理解することができる	
			書くこと	(B1) 地域の伝統行事について分かったことを、簡単にまとめて書くことができる	
			やり取り	(A2) 活動参加者とお互いの国の文化や習慣について簡単に質問したり答えたりすることができる	
社会の一員となる	地域社会に参加する	地域社会に参加する	発表	(B1) 地域のボランティアサークル活動に参加して、テーマに沿ったまとまりのある簡単なスピーチをすることができる	
			やり取り	(A2) 地域のボランティアサークル活動で、活動の指示などを簡単な言葉で確認できる	

				情報の交換	(A1)参加者に地域行事がいつ、どこで行われるかを尋ね、ゆっくりははっきりと簡潔に話されれば、答えを理解することができる
	自身を豊かにする	学習する	日本語を学習する	創作	(B1)日本語学習活動で、新たに知った語彙や表現を使って、地域の伝統行事について簡単にまとめることができる
				発表	(A2)絵本に出てくる表現を理解した上で絵本の読み聞かせができる
				やり取り	(A1)図書館へ行って、図書カードを作成することができる
			日本について理解する	聞くこと	(B1)日本人参加者から、読み聞かせする上での重要なポイントを聞き、理解できる
				やり取り	(A2)活動参加者に、資料にある漢字の読み方や、分からない言葉について質問し、簡単な答えなら理解することができる
	情報を収集・発信する	マスメディアを利用する	マスメディア等を利用する	やり取り	(B1)自分が出演したラジオ番組を聞いた人と。番組の内容について、簡単なコメントや意見交換をすることができる
				やり取り	(A2)自分が出演したラジオ番組を聞いた人に感想を聞いたり、質問に答えたりできる
				やり取り	(A1)インタビューで、自分の名前や出身国などの情報を伝えることができる

【会津会場】

大分類	中分類	小分類	Can do
人とかわる	他者との関係を円滑にする	人と付き合う	(B1)日本語活動に参加し、初めて会った人の身近な話が理解でき、簡単な質問ができる
			(A2)日本語活動に参加し、初めて会った人と自分の身近なことにに関して、短い話ができる
			(A1)日本語活動に参加し、初めて会った人に名前、出身など身近なことが伝えられる
		異文化を理解する	(B1)グループ活動において、日本人参加者の説明を理解し、自分の意見も出し合いながら、円滑に活動することができる
			(A2)グループ活動において、分からないことを日本人参加者に尋ねたり、自分の意見を言ったりすることができる
			(A1)グループ活動において、簡単で短い表現の指示や

				質問が理解でき、簡単に意思表示ができる						
	自身を豊かにする	学習する	グループで活動する	(B1) グループ活動において、日本人参加者の説明を理解し、自分の意見も出し合いながら、円滑に活動することができる						
				(A2) グループ活動において、分からないことを日本人参加者に尋ねたり、自分の意見を言ったりすることができる						
				(A1) グループ活動において、簡単に短い表現の指示や質問が理解でき、簡単に意思表示ができる						
			インタビューする	(B1) インタビューをする際、相手の答えを確認しながら用意されたインタビューをやり遂げることができる						
				インタビューする際、相手からの確認や周りからのサポートを受けることもあるが、自分が言いたいことを相手に理解させることができる						
				(A1) インタビューする際、簡単な質問をすることができる。						
	社会の一員になる	長く一人で話す	発表する	(B1) 発表時に、接続詞などを使い発表事項を並べて、比較的流暢に話すことができる						
				(A2) 発表時に、発表事項を列挙して、簡単に述べることができる						
				(A1) 発表時に、非常に短い、準備して練習したものを読み上げることができる						
	情報を収集・発信する	マスメディアを利用する	マスメディアを利用する	(B1) インタビューされた際、質問された内容を理解し、答えたい内容を比較的流暢に話すことができる						
				(A2) インタビューされた際、自己紹介に加え、活動の内容、感想を簡単に述べることができる						
				(A1) インタビューされた際、自分の名前や出身国などの情報を伝えることができる						
使用した教材・リソース	【福島会場】日本語指導者のオリジナル教材 【須賀川会場】日本語指導者のオリジナル教材 外部講師（須賀川市学芸員及び読み聞かせ講師）からの配布資料 【会津会場】日本語指導者のオリジナル教材									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	8	0	0	6	0	0	0	0	3	25

	※その他の国 アメリカ（3人）、スリランカ（3人）、インド（1人）、スコットランド（1人）、マレーシア（1人）、ナイジェリア（1人）
--	--

（１） 特徴的な活動風景（2～3 回分）

取組事例①【福島会場】

令和5年8月19日（土）10:00～16:00 ・ 福島の桃と母国の桃、桃について知っていることの共有 ・ 福島の桃の魅力とPRポイントを探す ・ 新聞記者によるレクチャー（桃農家へのインタビューの準備） ・ 桃農家での取材 ・ 取材の振り返りとPR方法を決める	令和5年8月20日（日）10:00～16:00 ・ 桃PRすごろくの制作 ・ 2日間の活動について発表する ・ おまけ みんなとすごろくで遊ぶ
--	--



取組事例②【須賀川会場】

令和5年8月19日（水）10:00～16:00 ・ 読み聞かせサークルメンバーによるデモンストレーション ・ 絵本の選び方と心がまえについての話を聞く ・ ワークシートに記入しながら、話をまとめる ・ 図書カード申請書類に記入 ・ 図書館に移動し、図書カードを作成 ・ 学芸員の話聞くにあたり、関連語彙の意味を確認する。 ・ 学芸員から松明あかしについての話を聞く	令和5年8月30日（水）10:00～16:00 ・ Youtube 動画用の字幕作成活動の続き ・ 日本語字幕を中国語に翻訳する ・ 中国語のナレーションを入れる ・ 完成した日本語字幕付き動画を全員で視聴する ・ 絵本選び ・ 絵本の読み合わせ ・ 模擬読み聞かせ
---	--

- ・ ワークシートに記入しながら、学芸員の話をもとめる
- ・ 須賀川公式 Youtube「松明あかし」(ショートバージョン)を見ながら、分担して字幕原稿を作成する。



取組事例③【会津会場】

令和5年9月9日(土) 10:00~16:00

- ・ 町を散策し、気に入った物などの写真を撮ってくる。
- ・ 七日町お気に入りマップを作る
- ・ なんでもベスト3を紹介する
- ・ グループで発表

令和5年9月16日(土) 10:00~16:00

- ・ お店の人にインタビューする。
- ・ 分かったこと・感想をカードに書いて、お気に入りマップに貼る。
- ・ グループで発表(七日町通りまちなみ協議会 副会長同席)



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

1 活動内容について

- ・ 従来の固定化された地域住民参加による定期的な日本語学習活動ではなく、不特定の地域住民と不特定の外国人がその場に集まり、2日間限りのプロジェクトワーク型の日本語学習活動を実施することができた。
- ・ また、従来の市町村や市町村国際交流協会だけに留まらず、地域団体関係者など多様な地域住民を巻き込んだ日本語学習活動を実施することができた。
- ・ 「子ども」「配偶者」「就労者」それぞれの対象者別に、それぞれが必要としている社会的つながりを意識した日本語学習活動を実施することができた。
- ・ 活動の成果が、物として形を残すことができた。
- ・ 地域の新聞に活動の様子が掲載された。

2 各会場の成果について

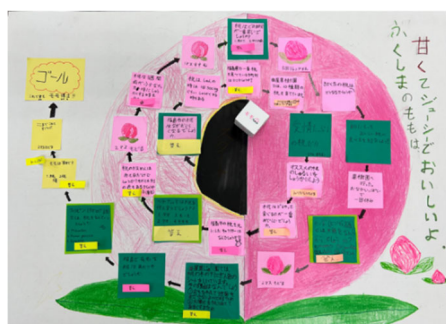
福島会場

1 日本語学習活動

- ・ 子どもたちは、ルーツや日本語力に関わらず積極的に協力しながら活動することができた。
- ・ 子どもたちは、それぞれの力を活かして桃 PR すごろくを作り上げることができた。
- ・ 子どもたちは、日常生活では会えない大人たちと出会うことができた。
- ・ 一人の子どもは、今回調べ学習の流れを学習したことで、後日学校での調べ学習の授業に役立てることができた。
- ・ 保護者たちは、子どもたちと活動をともにすることで、子どもたちの事を知ることができた。
- ・ 保護者同士のつながりができた。

2 具現化された成果物の地域での活用

- ・ 制作したすごろくは、福島市多文化共生センターに設置され、来場者が自由に遊ぶことができた。

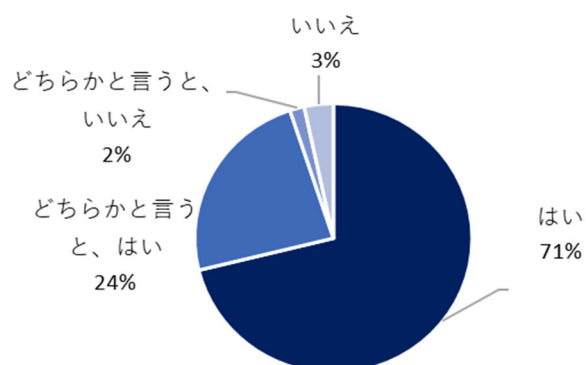


	3 メディア等での発信 ・ 福島民友（2 件） ・ 福島民報（2 件） ・ JA ふくしまみらい Web サイト（1 件） ・ （一社）ふくしま多言語フォーラム Facebook（2 件）
須賀川会場	1 日本語学習活動 ・ 参加者たちは、これまで関わりを持たなかった市役所職員や地域のサークルメンバーと一緒に協力しながら活動することができた。 ・ 参加者たちは、後日読み聞かせの実践の場を得るなど、あらたなつながりを作るきっかけになった。 ・ 参加者たちは、参加外国人代表の希望する学習内容を取り入れたこともあり、高い参加意欲を持って活動に取り組むことができた。 2 具現化された成果物の地域での活用 ・ 後日、読み聞かせを地域のイベントで実践した。 ・ 日本語字幕スーパー及び中国語ナレーション入りの動画を須賀川市役所に進呈した。  3 メディア等での発信 ・ 福島民友（1 件） ・ 福島民報（1 件） ・ （一社）ふくしま多言語フォーラム Facebook（2 件）

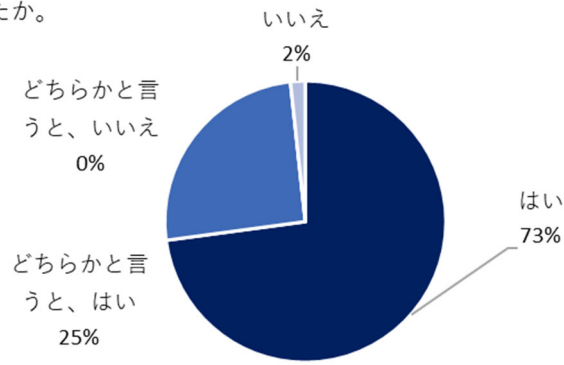
会津会場	1 日本語学習活動 ・ 参加者たちは、これまで付き合いのない人たちと一緒に協力しながら活動することができた。 ・ 参加者たちは、七日町通りという地域に関心を持つことができた。 ・ 参加者たちは、日本人参加者と一緒に七日町通りのお店に入ることができた。 ・ 参加者たちは、日本人参加者と一緒に写真の許可を取ったり、インタビューしたりして、店の人たちとやり取りをすることができた。 2 具現化された成果物の地域での活用 ・ マップに掲載された店舗にマップを進呈することができた。 ・ 地元の国際交流協会である会津若松市国際交流協会で、来所者がマップを見ることができた。  3 メディア等での発信 ・ 福島民友（3 件） ・ 福島民報（2 件, Web 版含む） ・ 七日通りまちなみ協議会ニューズレター（1 件） ・ （一社）ふくしま多言語フォーラム Facebook (2 件)
------	--

3 参加者アンケート結果について（※子ども向けには文意を変えずに文書を変えている）
（福島会場 1 回 10 枚、須賀川会場 2 回計 21 枚 会津会場 2 回計 28 枚 総数 59 枚回収）

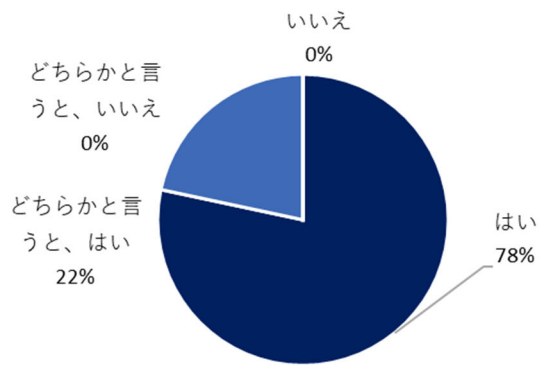
1 相手が分かる日本語を探しながら、話ことができましたか。



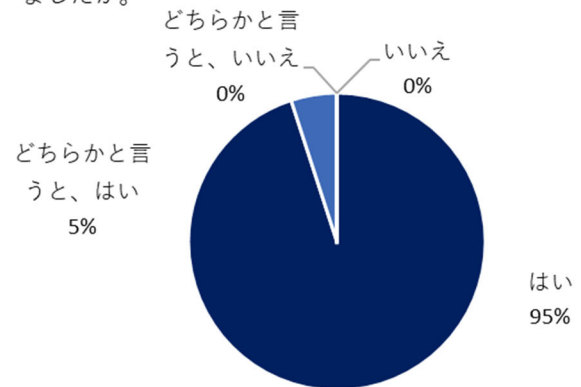
2 日本語で話が通じないとき、通じるように工夫しましたか。



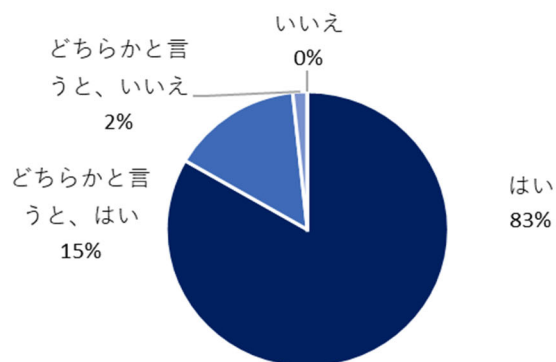
5 皆さんと協力しながら活動できましたか。



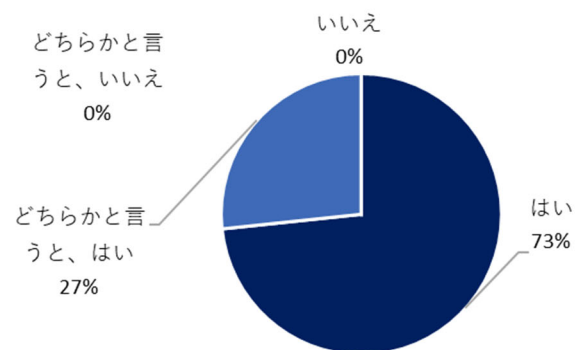
6 外国人も日本人も同じ地域の一員であることを実感できましたか。



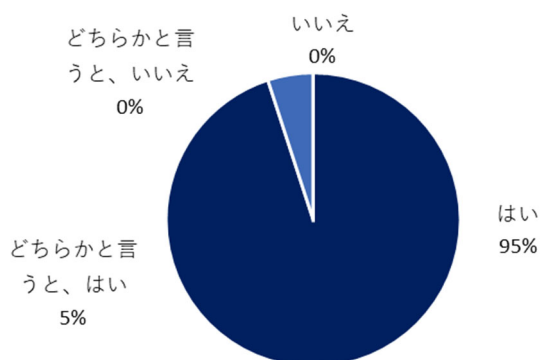
3 外国人・日本人関係なく誰とも話ができましたか。



4 積極的に活動できましたか。



7 活動に参加して満足していますか。



8 今日の活動で新しく知った言葉はなんですか。

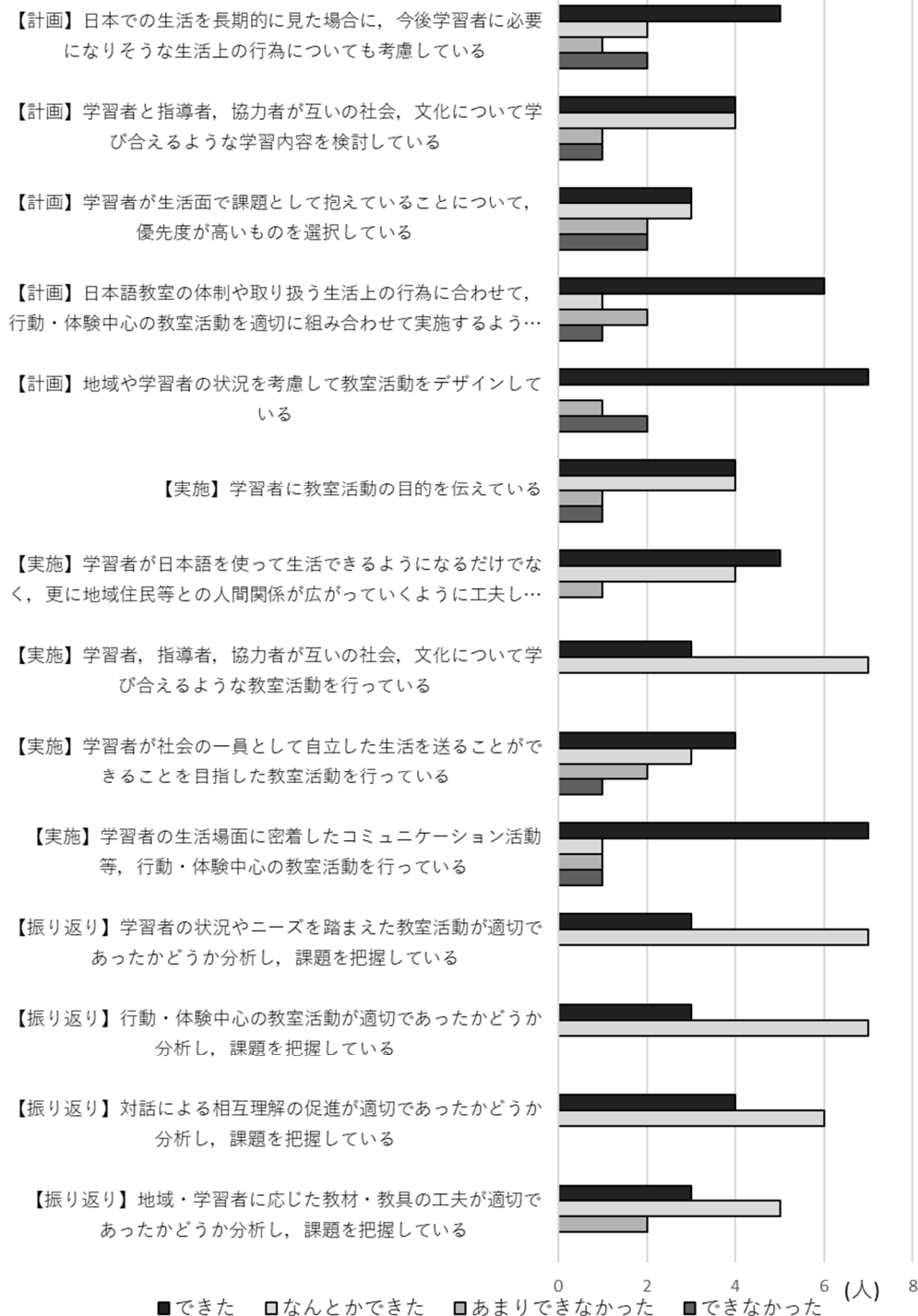
福島会場	太陽光線、たいようこうせん、愛情、あいじょう、種類する、摘果、アル＝Mitotom＝桃、桃、ダーオ（桃のベトナム語訳）、アール（桃のヒンディー語訳）、ミロコーン（桃のタガログ語訳）、あかつき、てきか
------	---

須賀川会場	見立て仕掛け、麓、擬声語、清書、仮装、橙、包囲、わかんねえ、ぼろきれ、めいめい、落城、炬火、詣で、五老山、石塔、檻樓、風邪に罹らない、馬簾、大名、たばこを飲む、偲ぶ、家来
会津会場	よくこらったなし、おわりなんしょ、再生紙、アトリエ、ガラスづくり、発表、麻、ていきゅうび、うるし塗、人気、グラス、じかん、質問、内容、さけ、おみせ、とても、しんせつ、まなび、インタビュー、ていねい、グループ、下駄、鼻緒、けんちく、デザイン、ハート、ぞうり、ぜひ、せいゆう、ようかん、尋ねる、短い、個、ぐらい、従業員、販売、答え、遅い、感想、集中、お茶の間

4 日本語指導者及び指導補助者 自己評価結果について（10 枚回収）

日本指導者及び日本語指導補助者が、次のような評価の観点を事前に認識し、実際の活動に取り組むことで、活動における効果を狙った。各指導者の自己評価の結果は次のとおりである。

日本語指導者（指導補助者）自己評価



（２） 今後の改善点について

1 日本語学習活動について

- 各会場のチーム会議で外国人メンバーに対するニーズ調査を行った際、「地域とのつながり」ということではなく、どちらかと言うと「外国人参加者がやりたいこと、興味関心があること」の議論になってしまった。そのため、「外国人参加者がやりたいこと、興味関心のあること」と「地域とのつながり」

を後から結びつける作業が必要になってしまった。今後ニーズ調査を行う場合は、目的を明確にして行う必要がある。

- ・ 日本語教育とは直接関わりを持たない外部講師に、参加外国人に対して「分かりやすい日本語で話す」ことを事前に丁寧に説明しておく必要がある。
- ・ 不特定多数の参加者を集めるイベント型であったため、参加者を集めることがとても難しかった。特に、外国の子どもの場合、情報は親や学校を通じて得るという状況にある。今後は、他団体との連携で実施するなど多様な集客方法を検討する必要がある。

2 日本語学習活動のモデルの設定について

- ・ 今回、新たな形の日本語教室を再構築するために、日本語学習活動のモデルを設定した。その場合、一過性のイベントという限定を踏まえた上で、地域とのつながりや日本語学習の効果をどの程度達成したいのかを検討する必要がある。

取組の成果の発信

【名称：メディアミックスによる取組の成果発信】

取組の目標	日本語学習活動の成果を地域に発信するとともに、外国人との共生社会の必要性のメッセージも併せて発信する。また、日本語学習活動の成果と課題を全国の関係者に向けて発信・共有し、全国の地域日本語教室等の今後の活動の一助とする。																									
内容	【A コミュニティラジオでの日本語学習活動の発信】 日本語学習活動の成果を発表するとともに、多文化共生社会の必要性についてのメッセージを発信した。 <table><tr><td>会場名</td><td>放送局</td><td>放送日時</td><td>内容</td></tr><tr><td>福島</td><td>FM ポコ</td><td>12 月 31 日 12:30～12:45</td><td rowspan="3">日本語学習中のやりとり、インタビューの様子、参加外国人の感想など</td></tr><tr><td>須賀川</td><td>ウルトラ FM</td><td>12 月 31 日 11:30～11:45</td></tr><tr><td>会津</td><td>FM 愛's</td><td>12 月 31 日 19:45～20:00</td></tr></table> 【B メディアミックスでの事業報告会(オンライン)】 日本語学習活動等の成果と課題を共有し、全国の地域日本語教室等の今後の活動の一助とした。 <table><tr><td>月日（1 回）</td><td>対象</td><td>参加者数</td><td>内容</td></tr><tr><td>令和 6 年 2 月 25 日(日) 13:30～15:50</td><td>全国の国際交流協会や地域日本語教室、その他関心のある方</td><td>59 人 (申込者 90 人)</td><td>事業報告スライドショー上映、事業の成果と課題の報告、日本語教育及び多言語メディアの立場からのコメント、意見交換会</td></tr></table>				会場名	放送局	放送日時	内容	福島	FM ポコ	12 月 31 日 12:30～12:45	日本語学習中のやりとり、インタビューの様子、参加外国人の感想など	須賀川	ウルトラ FM	12 月 31 日 11:30～11:45	会津	FM 愛's	12 月 31 日 19:45～20:00	月日（1 回）	対象	参加者数	内容	令和 6 年 2 月 25 日(日) 13:30～15:50	全国の国際交流協会や地域日本語教室、その他関心のある方	59 人 (申込者 90 人)	事業報告スライドショー上映、事業の成果と課題の報告、日本語教育及び多言語メディアの立場からのコメント、意見交換会
会場名	放送局	放送日時	内容																							
福島	FM ポコ	12 月 31 日 12:30～12:45	日本語学習中のやりとり、インタビューの様子、参加外国人の感想など																							
須賀川	ウルトラ FM	12 月 31 日 11:30～11:45																								
会津	FM 愛's	12 月 31 日 19:45～20:00																								
月日（1 回）	対象	参加者数	内容																							
令和 6 年 2 月 25 日(日) 13:30～15:50	全国の国際交流協会や地域日本語教室、その他関心のある方	59 人 (申込者 90 人)	事業報告スライドショー上映、事業の成果と課題の報告、日本語教育及び多言語メディアの立場からのコメント、意見交換会																							

取組による特定のニーズに対する工夫	1 地域への発信 コミュニティラジオでの日本語学習活動の成果を発信することにより、リスナーが一層身近に外国人の存在に気づくようにした。 2 全国への発信 オンラインで実施することにより、全国各地から参加しやすいうようにした。また、事業の成果と課題を広く発信し共有することで、全国共通の課題解決につなげるようにした。さらに、日本語学習活動の様子の写真にコミュニティラジオの放送音声を重ねるスライドショーを制作して報告したことにより、より具体的な事業報告とした。		
実施期間	【A コミュニティラジオ】 令和5年12月31日 【B オンライン報告会】 令和6年2月25日	時間数	【A コミュニティラジオ】 1回 15分×3回 =45分 【B オンライン報告会】 1回 2時間20分×1回=2時間20分
対象者	【A コミュニティラジオ】 地域住民 【B オンライン報告会】 全国の関係者	参加者	【A コミュニティラジオ】 不明 【B オンライン報告会】 59人 (報告者、コメンテーター、主催者7人を除く)

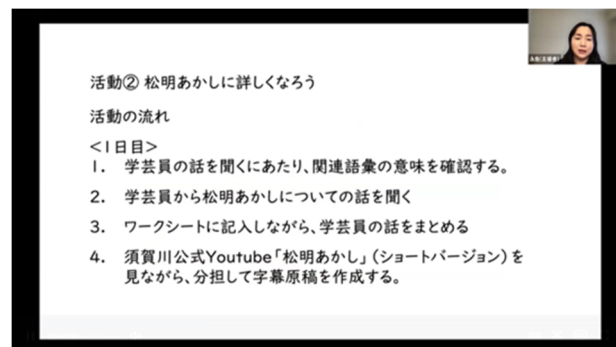
(1) 特徴的な活動風景 (2～3 回分)

取組事例①【オンライン報告会】

【令和6年2月25日(日)】 13:20 事業報告スライドショーのプレ上映 13:30 開会、主催者あいさつ 13:35 第1部事業報告 (1) 事業の全体像 (2) 事業報告スライドショーの上映 (3) 各会場の日本語講師からの報告 (佐々木千賀子さん、石橋英子さん、永島恭子) (4) コーディネーターからの報告 (幕田順子) 14:35 第2部 コメント (1) 日本語教育の視点から (武蔵野美術大学教授 (日本語教育学) 三代純平さん) (2) メディア活用の視点から (エフエムわいわい代表理事 金千秋さん) 15:05 休憩 15:15 意見交換会
--

15:45 まとめ

15:50 閉会



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

1 コミュニティラジオに関して

- それぞれの実施会場にあるコミュニティラジオを使って、2日間の日本語学習活動の成果を地域に発信することができた。
- 外国人との共生社会の必要性のメッセージも併せて発信することができた。

2 報告会に関して

- オンラインであったため、全国から多くの関係者に向けて、モデル的に実施した日本語学習活動の成果と課題を発信することができた。
- 意見交換の場では、参加者と様々な情報を共有することができた。
- 参加者アンケート（34枚回収）では、「今後の活動に参考となる内容がありましたか？」の質問に対し、「あった」（76.5%）と「どちらかと言うとあった」（20.6%）を合わせると97%となり、ほぼ全員がなんらかの参考となる内容を得ることができた。

(3) 今後の改善点について

コミュニティラジオに関して

- コミュニティラジオでの発信は、地域密着であるというメリットがある反面、リスナーの母数が限定的というデメリットがあることを前提に、ラジオ局を選定する必要がある。
- ラジオ番組編集者に対して趣旨説明を何度か繰り返したものの十分な共有が難しく、外国人参加者の声が主催者側の想定より少ないなどの問題があった。今後は、普段外国人との共生社会とは関係のない分野の方に業務をお願いする場合は、趣旨の共有を丁寧にしていく必要がある。
- 1回限りの放送だけで、地域に暮らす外国人の存在に目を向けるようになることには限界がある。このような取組は、継続的な発信があってこそ成果が見えてくるものなので、引き続き何等かの形で発信をし続ける必要がある。

報告会のに関して

- ・ 運営に関して、募集は、申込者が 90 人に達した時点（10 日前）で締め切った。さらに 3 日前にリマインドメールを送信したにもかかわらず実際の参加はその 6 割程度であった。今後は、申込数と参加者数のギャップを小さくする何か方策を考える必要がある。

任意の取組

【名称：中核メンバー会議、チーム会議及び関係者会議の設置】

取組の目標

【A 中核メンバー会議】

主に、県内 3 会場で実施する取組 2 における日本語学習活動案の基本構成の立案、および 3 会場の活動案への助言や提案、調整、事業の成果と課題、評価を行う。

【B 各会場チーム会議】

各会場の活動に関わる当事者の立場から、地域の実情や日本語学習者の属性に応じた日本語学習活動案の企画を行う。

【C 関係者会議】

関係者により各事業をより効果的に実施するための事業の企画、調整を行う。

内容	【A 中核メンバー会議の設置】 主に、県内3会場の日本語学習活動案の基本構成の立案、および3会場の活動案への助言や提案、調整を行うための会議を開催した。		
	回数	メンバー名	
	計5回	佐々木千賀子（福島会場チーム長兼日本語指導者）、石橋英子（会津会場チーム長兼日本語指導者）、永島恭子（須賀川会場兼「日本語指導者」、幕田順子（コーディネーター）	
	【B 各会場におけるチーム会議の設置】 各会場の活動に関わる当事者の立場から、地域の実情や日本語学習者の属性に応じた日本語学習活動を企画しその振り返り等を行うための会議を開催した。		
	チーム名	回数	メンバー名
福島	計6回	佐々木千賀子（中核メンバー兼チーム長兼日本語指導者）、日本語指導補助者2人、外国人代表者、永島恭子、幕田順子	
須賀川	計5回	永島恭子（中核メンバー兼チーム長兼日本語指導者）、日本語指導補助者2人、外国人代表者、地元国際交流団体代表者、幕田順子	
会津	計6回	石橋英子（中核メンバー兼チーム長兼日本語指導者）、日本語指導補助者2人、外国人代表者、地元国際交流団体代表者、永島恭子、幕田順子	
	【C 関係者会議】 各事業をより効果的に実施するために関係者による会議を開催した。		
	取組名	回数	出席者名
	取組2（須賀川会場）	1回	須賀川市役所職員、読み聞かせ講師、地元国際交流団体代表者、永島恭子（日本語指導者）、幕田順子
	取組2（福島会場）	1回	桃農家、佐々木千賀子（日本語指導者）、幕田順子
	取組3（報告会）	2回	コメンテーター、発表者、中川祐治、永島恭子、幕田順子
取組による特定のニーズに対する工夫	・内容に応じて対面またはオンラインで実施し、効果的な会議とした。 ・会議出席者を各事業の関係者に限定することで、より深い議論ができるようにした。		
実施期間	令和5年6月18日 から 令和6年3月5日 まで	時間数	【A 中核メンバー会議】 1回1～2時間×5回 = 9時間 【B チーム会議】 1回1～2時間×17回 = 22時間 【C 関係者会議】 1回1～2時間×4回 = 7時間

対象者	【A 中核メンバー会議】 中核メンバー 【B チーム会議】 各会場の日本語指導者、日本語指導補助者、外国人、地域の関係者、および主催者 【C 関係者会議】 各取組における関係者	参加者	【A 中核メンバー会議】 のべ 20 人 【B チーム会議】 のべ 92 人 【C 関係者会議】 のべ 18 人 総数 のべ 130 人
-----	--	-----	---

(1) 特徴的な活動風景 (2～3 回分) (オンライン会議のため写真省略)

取組事例①【中核メンバー会議】

【10 月 28 日 19:00～21:00】 ○場所：オンライン ○出席者：中核メンバー 4 人 ○議題 1 事業の目的と今後のスケジュールの確認 2 日本語学習活動の成果と課題について 3 オンライン報告会の企画について

取組事例②【チーム会議(須賀川)】

【7 月 5 日 14:00～16:00】 ○場所：オンライン ○出席数：須賀川チーム 7 人 ○議題 1 事業概要について 2 外国人コミュニティ代表のニーズ調査 3 2 日間の構成について 4 今後のスケジュール
--

取組事例③【関係者会議（報告会）】

【令和 6 年 1 月 30 日 20:00～21:30】 ○場所：オンライン ○出席者：コメンテーター、発表者など 6 人 ○議題 1 実施要項（案）について 2 事業紹介スライドショー（案）について 3 事業の全体像報告（案）について 4 コーディネーターの報告（案）について
--

(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

・各取組に応じた関係者による会議を実施したことで、より深い議論ができた。そのことにより、各取組の充実につながった。

(3) 今後の改善点について

・特になし。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- 1 地域に開かれ地域とつながる新たな形の日本語学習活動をモデル的に実施する。
- 2 モデル的に実施した日本語学習活動の成果と課題を、広く全国の地域日本語教育関係者に向けて発信・共有し、新たな日本語学習活動を提案する。

(2) 特定のニーズの充足に向けて試行した方法

(1) 多様な学習者

「子ども」、「就労者」、「配偶者」など多様な学習者を対象に学習者の実情やニーズに応じた活動案を企画立案・実施し、属性ごとの必要な社会的つながりを明確にするように努めた。

(2) 県内各地の実施

広い県土を持つ福島県において県内3会場で日本語学習活動を実施し、それぞれの地域の関係者を巻き込み事業の波及効果が上がるように努めた。

(3) 当事者である外国人が参画する運営委員会や会場毎のチームの編成

運営委員会や各会場チーム会議においては、当事者である外国人がメンバーとして参画し、公平性に配慮しながら、共通の課題やニーズに対し、共に考え共に作るプロセスを経る要に努めた。

(4) ネットワーキングを目指した実施体制

当事業を通じて、新たな連携、新たな人とのつながりを創発していけるよう、各地域の国際交流協会や外国人キーパーソンなど多様な関係団体を巻き込んだチーム会議メンバーを編成し、持続可能な日本語学習活動となり得るように努めた。

(5) 令和4年度の同様の日本語学習活動の実績に基づいた企画

チーム会議のメンバー選出やラジオ放送構成などにおいて、当フォーラムが令和4年度に実施したプロジェクトワークを取り入れた日本語学習活動「ラジオ番組をつくろう」（計14時間）のノウハウを生かした。

（6）プロジェクトワークを取り入れた地域とのつながり

活動の具現化としてそれが地域で活かされることを想定し、すごろくを作る、動画に日本語字幕スーパーや中国語ナレーションを入れる、オリジナルマップを作るといったプロジェクトワークを取り入れた日本語学習活動を行った。

（7）コミュニティラジオを活用した地域への発信

日本語学習活動の成果を、地域と密着したメディア媒体であるコミュニティラジオで発信して、地域に暮らす外国人の見える化につなげた。

（8）多様な学習評価の活用

参加者の振り返りシートや、日本語指導者による Cando 記述文を活用した外国人学習者に対する学習評価など、多様な方法で学習を評価した。

（9）地域の日本語教室活動者の参加

地元の日本語教室を既に活動している日本語学習支援者の地域住民の一人としての参加を促し、既存の日本語教室での実践につなげるように努めた。

（10）メディアミックスを活用した報告会の実施

オンラインで開催することにより、県内にとどまらず全国の地域日本語教育関係者に広く事業の成果と課題を発信し共有できるように努めた。

また、日本語学習活動をより視覚化するために、活動写真にコミュニティラジオでの放送内容を重ねた動画を作成し、報告会で放送した。

（11）地元新聞社への記事掲載

地元新聞社に出向き、募集告知と実施報告の記事掲載をお願いし、新聞というメディア媒体での事業の広報に努めた。

（12）活動成果の具現化

2日間の活動の具現化として、すごろく、動画、マップと地域で活かされる物として残すようにした。

（3）目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

適正な時期に運営委員会や中核メンバー会議、チーム会議、関係者会議での協議を重ねた結果、次のとおり取りまとめた。

1 地域に開かれ地域とつながる新たな形の日本語学習活動をモデル的に実施にかかわる目標の達成状況・成果について

(1) 次のような日本語学習活動のモデルを設定し、実施することができた。

- ・ 1 回完結のイベント型、プロジェクトワーク型
- ・ 地域住民の参加
- ・ 地域人材（外部講師）の取り込み
- ・ 教室外での活動
- ・ 活動したことが地域とつながる活動
- ・ 活動の様子や成果を、様々なメディアを活用して地域に発信

(2) 次のような対象者が必要としている社会とのつながりを意識した日本語学習活動を実施することができた。

- ・ 子どもに対しては、福島の名産である桃をテーマに、地域住民が遊べるものづくり
- ・ 配偶者に対しては、母親の経験に基づく地域の子どもに対する中国語での読み聞かせをする活動と、地域の伝統行事「松明あかし」を紹介する動画の編集
- ・ 就労者に対しては、休日に出かける地域の観光地のお店の人との関係性づくりと、その活動を通じてのお気に入りマップづくり

(3) 今回設定した日本語学習活動のモデルの成果と課題を、次の通り明らかにすることができた。

【成果】

- ・ 外国人が、新たな人間関係を作るきっかけや、新たな地域団体とのつながりを作るきっかけ、つまりいままでなかった「ゼロ」から「1」にすることができたという意味で、大きな成果があった。
- ・ いままで地域に暮らす外国人に対してあまり関心がなかった地域住民が、外国人との協働作業やラジオで聞いたことを、今後の様々な生活の場面で「あ～そう言えば」と思い出す、つまり次につながる可能性を残したという意味で、大きな成果があった。
- ・ 参加者アンケート「6 外国人も日本人も同じ地域の一員であることが実感できましたか。」で「はい」が95%と「どちらかと言うと、はい」(5%)と併せると100%となった。このことから参加した外国人及び地域住民に対し、多文化共生の啓発に大きな成果があった。
- ・ モデルの各項目別で成果をまとめると、次の通りである。

1 イベント型（定期的開催型との対比において）	・ 外国人が、いままで付き合いのなかった日本人だけでなく外国人とも知り合いになり、今後の関係性を作るきっかけとなった。 ・ いままで外国人に関わったことのない地域住民が、気楽に参加することができた。 ・ 次の日本語教育の担い手の可能性につながる若い世代の地域住民の参加があった。 ・ 地域住民が、いままで付き合いのなかった外国人と知り合いになり、今後の関係性を作るきっかけとなった。
2 プロジェクトワーク型	・ 外国人が、日本人とのやり取りを通じて、自然な形で知っている日本語を応用したり、またはその場で日本人から生きた日本語を学んだりすることができた。

	きた。 ・ 外国人が、講義型ではない日本語学習の場を体験することができた。 ・ 外国人が、普段体験することがない「外国人、日本人関係なく参加者全員が一つの目標に向かって協力しながら活動する」ということを体験することができた。
3 地域住民の参加、地域人材（外部講師）の取り込み	・ 地域住民が、地域に暮らしている外国人の存在に気づくことができた。 ・ 地域住民が、相手が分かる日本語を探りながら、または知っている外国語を使いながらなんとか外国人とコミュニケーションを図ろうとする態度を学ぶことができた。 ・ 特に会津会場では、「やさしい日本語」を学び、その場で実践し、その有効性が実感できた。 ・ 地域住民が、外国人の日本語の現状について知ることができた。 ・ 地域住民が、普段体験することがない「外国人、日本人関係なく参加者全員が一つの目標に向かって協力しながら活動する」ということを体験することができた。 ・ 普段外国人と関わりのない地域団体とのつながりを作るきっかけとなった。
4 教室外（会場外）での活動	・ 外国人が、教室内で学んだことを教室外の知らない地域住民に対して実践することができた。 ・ 外国人が、地域住民とつながりを実感することができた。 ・ 教室外の地域住民が、地域に暮らしている外国人の存在に気づくことができた。
5 活動成果と地域とのつながり	・ 活動したことが会場内での発表に留まらず、会場外である地域社会においてすごろく、動画、マップという「目に見える形」にすることができた。 ・ 地域住民が、その成果物を通じて地域に暮らす外国人の存在を継続的に意識することができるようになった。 ・ 外国人が、地域の構成員として地域のために役立つことができた実感することができた。
6 活動を地域に発信	・ 地域住民が、地域に暮らしている外国人の存在に気づくことができた。 ・ 地域住民が、外国人も地域の構成員として地域のために役立つ活動をしていることを知ることができた。

【課題】

- ・ 参加外国人が、今回の活動を通じて新たなつながりを作るきっかけとなった地域団体や地域住民との関係性を、今後も何等かの形で膨らませていくことが必要である。
- ・ 新聞やラジオを通じて、地域住民が地域に暮らす外国人の存在に気づくきっかけとなったことを、今後も何等かの形で膨らませていくことが必要である。

2 当事業に関する全国の地域日本語教育関係者に向けての発信・共有に関する目標の達成状況・成果について

- ・ オンラインで実施したため、地域日本語学習関係者が居住地を問わず参加することができた。

- ・積極的に広報したため、全国から100人近くの申し込み者があった。
- ・文化庁事業報告会というよりも、「地域に開かれ地域とつながる日本語学習活動」を前面に出して広報したこともあり、このテーマに関心のある人を集めることができた。
- ・活動写真にコミュニティラジオのアナウンスを重ねたスライドショーを上映したため、より具体的に活動の様子を発信することができた。
- ・日本語学習活動終了後、その成果と課題を十分に検討する時間があったため、より中身の深い成果と課題について、全国の地域関係者と共有することができた。
- ・参加者アンケート（34枚回収）では、「今後の活動に参考となる内容がありましたか？」の質問に対し、「あった」（76.5%）と「どちらかと言うとあった」（20.6%）を合わせると97%となり、参加者に対し、今回の事業の成果と課題を十分発信することができた。

（4）地域の関係者との連携による効果、成果等

1 日本語学習活動における各会場における地域の関係者との連携は次のとおり。

福島会場	① 福島市国際交流協会（会場便宜供与、成果物活用） ② 読売新聞福島支社（取材方法の指導） ③ 桃農家（インタビュー協力） ④ 英会話サークル（学習成果の発表） ⑤ JA ふくしまみらい（成果物報告）
須賀川会場	① 日中支援会～つばさの会（参加者集め） ② 須賀川市（職員派遣、成果物活用） ③ 読み聞かせの会ぽけっと（読み聞かせ指導、学習成果の発表） ④ 知る古会（伝統行事「松明あかし」の指導）
会津会場	① 会津若松市国際交流協会（広報、参加者動員、成果物活用） ② 七日町通りまちなみ協議会（インタビュー協力のとりまとめ、学習成果の発表） ③ 七日町通りのお店の皆さん（インタビュー協力、成果物活用）

2 その効果、成果等

- ・外国人が、これまで関係性の全くなかった地域住民、または地域団体と新たな接点を作ることができた。
- ・外国人が、学習成果を地域住民に向けて発表することができた。
 - 福島会場（英会話サークルの前で発表）
 - 須賀川会場（子どものイベントで読み聞かせを实践）
 - 会津会場（七日町通りまちなみ協議会副会長の前で発表）
- ・外国人の日本語学習の成果として地域に役立つ成果物を地域で活用してもらえることができた。このことを通じて、外国人自身が地域の構成員として地域のために役立つことができた実感できた。
 - 福島会場（すごろく）
 - 須賀川会場（動画）
 - 会津会場（マップ）

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

1 日本語学習活動

福島会場	① 福島市国際交流協会（広報、成果物の活用） ② 福島県国際交流協会（広報） ③ 福島民友（広報、実施報告） ④ 福島民報（広報、実施報告） ⑤ 英会話サークル（学習成果の発表） ⑥ JA ふくしまみらい（成果物の報告） ⑦ FM ポコ（ラジオ放送） ⑧ （一社）ふくしま多言語フォーラム Facebook（広報、実施報告）
須賀川会場	① 須賀川市（広報、成果物の活用） ② 須賀川多文化共生ネット（広報） ③ 読み聞かせの会ぽけっと（当該団体の事業に相乗りする形で、学習成果の発表） ④ 福島民友（実施報告） ⑤ 福島民報（実施報告） ⑥ ウルトラ FM（ラジオ放送） ⑦ （一社）ふくしま多言語フォーラム Facebook（広報、実施報告）
会津会場	① 会津若松市国際交流協会（広報、成果物の活用） ② 会津喜多方市国際交流協会（広報） ③ 会津坂下町国際交流協会（広報） ④ 会津大学（広報） ⑤ 福島国際交流協同組合（広報） ⑥ 会津グローバルネットワークス（株）（広報） ⑦ 七日町通りまちなみ協議会（学習成果の発表） ⑧ 七日町通り商店の各店舗（成果物の活用） ⑨ FM 愛 's（ラジオ放送） ⑩ （一社）ふくしま多言語フォーラム Facebook（広報、実施報告）

2 報告会

- ① 文化庁（広報）
- ② 岩手県、宮城県、栃木県、新潟県、福島県、仙台市、福島市、いわき市、郡山市、会津若松市、喜多方市の国際交流協会（広報）
- ③ インターカルト日本語学校（広報）

(6) 今回のプログラム実施を通して得られた知見やノウハウ

1 イベント的な日本語学習活動に関して

- ・ イベント的な日本語学習活動は、地域につながるきっかけとなりうる可能性を大いに秘めていること。
- ・ イベント的であるが故に、活動が新聞等に取り上げられやすく、それゆえに地域への発信に大いに役立つこと。
- ・ 日本語レベルの分からない外国人と外国人との関わりのなかった地域住民が集まる状況の中で、日本語指導者の高い日本語指導力とその場を創っていくファシリテーションスキルが求められること。

2 日本語学習活動における「地域とのつながり」に関して

- ・ 「地域とつながり」を意識することで、地域の市町村（国際交流協会）や国際交流団体に留まらず、テーマに関する様々な地域団体と連携ができること。
- ・ 地域への発信において、地元新聞への記事掲載は新聞社に足を運んで趣旨を説明することにより、記事として取り上げられる可能性が高くなること。さらに、それが無料でできること。
- ・ 「地域に開かれ地域につながる日本語学習活動」をテーマとした報告会には、全国から 100 人近くの申込者がありこのテーマに関する関心の高さが見受けられることから、地域の日本語学習活動においては、「地域とつながる」ことは、普遍的なテーマであること。
- ・ 通常の「閉じられた空間と閉じられた人間関係」になりがちな従来の定期的な日本語教室に、適宜イベント型の日本語教室活動を組み入れていくことで、従来の活動でも「地域に開かれ地域につながる日本語学習活動」につながることを。

3 日本語学習活動における「地域とのつながり」を担う人材に関して

- ・ 「地域とつながる」日本語学習活動においては、日本語指導そのものに加え、今回のコーディネーターのように地域とつなぐ役割を担う人材の確保も重要であること。その理由は、まずは日本語学習活動の内容的な面において、コーディネーターは、日本語学習活動を第 3 者的視点で見ることができると、日本語指導者と一緒に活動することで、地域とつながることを意識した日本語学習活動につなげることができる。もう一つは、日本語学習活動の運営的な面として、コーディネーターは地域とのつながりという外側に向けた活動に集中的に担うことで、日本語指導者は学習者に対する日本語教育という内側の活動に集中できる。
- ・ コーディネーターは、日本語教育の専門知識、行政や地域団体との交渉力、そして日本語指導者と関係者間との調整力など様々なスキルが求められること。

(7) 改善点、今後の課題について

- ・ 一過性のイベント型で作られた「地域とのつながり」や「日本語レベルの向上」のきっかけづくりを膨らませ継続的なものにするため、次のステップが必要となってくる。
- ・ イベント型の場合、人を集める必要があることから、効果的な広報方法を検討する必要がある。
- ・ メディアの活用に関しては、主催者の意図が確実に伝わるようメディア発信者と事前の課題共有を十分にすることが必要である。